

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

耐糖能異常を有する外来心臓リハビリテーション実施患者における運動療法による血糖コントロールの変化の検討

2. 研究の対象患者

2012年から2018年の期間において、旭中央病院にて外来リハビリテーションを受けた患者さんの内、HbA1c6.5%以上の耐糖能異常を有する患者さん

3. 研究の対象期間

2012年1月1日～2018年12月31日

4. 研究の概要

平成28年時点で、日本の「糖尿病が強く疑われる者」と「糖尿病の可能性が否定出来ない者」はいずれも約1000万人と推計され、「糖尿病が強く疑われる者」は平成9年以降増加している。糖尿病治療の目標の1つは、血管合併症の予防や進展抑制であり、適切な血糖コントロールが重要である。また、血糖コントロールの方法としては食事療法・運動療法が基本であり、その重要性は高い。最新の糖尿病診療ガイドラインにおいても、2型糖尿病患者における運動療法は推奨グレードAとされ、食事療法と組み合わせることでいっそう高い効果が期待できるとされている。運動内容に関しては、持続的、律動的、かつ反復的に主要筋を10分以上動かす有酸素運動と、骨格筋に負荷をかけるレジスタンストレーニングとの併用が望ましいとされ、具体的な運動内容やその際の注意点などが明記されている。一方、運動療法を中心にリハビリテーションを展開する理学療法士は、現状では主に機能回復を目的とする介入が主の診療報酬体系であるため、一次予防の観点から糖尿病患者に関わる機会を得にくく、耐糖能異常を予防・改善する高いエビデンスのある領域に関わることができないという矛盾を抱えている。

本研究は、耐糖能異常を合併する外来心臓リハビリテーション患者において、リハビリテーションの内容やその期間・頻度、身体機能の向上度合いなどが、血糖コントロールの指標であるHbA1c値やその他の生化学的検査値にどのような変化を与えるかを調査する。これにより、現在理学療法士が関与できる三次予防の場で、心血管ハイリスク患者の血糖コントロールに対する「専門職が介入する運動療法」の効果や安全性を検証でき、ひいては耐糖能異常に対する一次予防まで含めた外来リハビリテーションの有用性も考察しえる。

5. 研究実施予定期間

2018年11月21日～2020年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

研究対象者背景：生年月日、年齢、性別、身長、体重、下腿長、既往歴、合併症、最終観察日・観察項目、入退院日、診断名

血液生化学的検査：BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、AST(GOT)、ALT(GPT)、LDH、CK、BUN

心肺運動負荷試験結果、身体機能検査(10m歩行速度、膝伸展筋力値、バランス能力)、身体活動量(歩数)、糖尿病薬、脂質異常症薬、栄養指導歴、有害事象の発生
リハビリテーションの実施期間、頻度、総実施単位数とその内容

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者：リハビリテーション科 小林 隆行

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)